

令和 2 年  
8 月 2 8 日

# 病虫害発生予報 9 月号

茨城県病虫害防除所  
茨城県植物防疫協会

農薬の誤飲に注意！農薬をペットボトル等に移し替えてはダメ！  
～令和 2 年度茨城県農薬危害防止運動期間(6/15～9/14)～

## < 目 次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病虫害】

サツマイモ：ナカジロシタバ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

秋冬ネギ：軟腐病・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

#### 【その他の病虫害】

ナシ，ブドウ，果樹共通，秋冬ネギ，夏秋ナス，抑制トマト，共通害虫・・・・・・・・ 2

### II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの  
「農薬登録情報提供システム」([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm))で  
確認することができます。

詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病虫害防除所 Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>

フェロモントラップデータ随時更新中

<HP QR コード>



# I. 今月の予報

## 【注意すべき病害虫】

### サツマイモ

#### 1. ナカジロシタバ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、被害つる先率（本年値 27.2%，過去9年平均値 17.4%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 100%，過去9年平均値 62%）は平年より高い。
- ② 8月下旬現在、100葉あたりの寄生虫数（本年値 0.6，平年値 1.9）は過去11年中3～4番目に多く、平年並～やや多い。発生地点率（本年値 40%，平年値 33%）は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 老齢幼虫になると薬剤の防除効果が劣るので、若齢～中齢幼虫の時期（つる先、上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期）の防除に努める。例年9月に被害つる先率が増加するので、早めに圃場を観察して防除適期を逃さないように注意する。
- ② 薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。

### 秋冬ネギ

#### 1. 軟腐病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

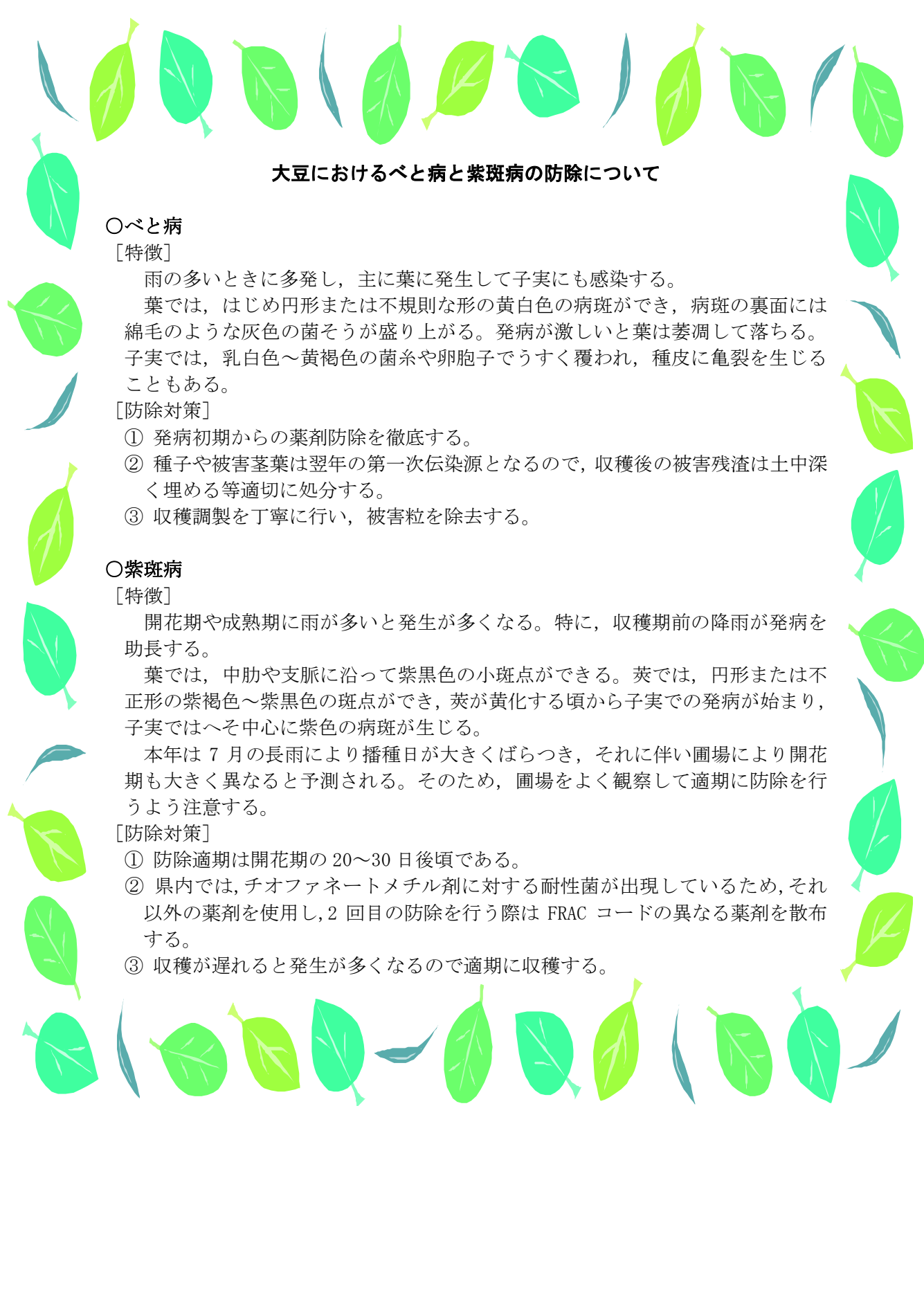
- ① 8月下旬現在、発病株率（本年値 4.0%，平年値 0%），発生地点率（本年値 33%，平年値 0%）はともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 薬剤防除は、予防散布を主体とし、既に発生が認められる圃場では、被害が拡大しないよう薬剤散布を行う。
- ② 圃場の排水を確実にを行い、土壌の多湿や湛水を防止する。
- ③ 本病の病原菌は傷口から感染するため、管理作業で葉等に傷をつけないようにする。特に、降雨前後の作業時には十分注意する。
- ④ 土壌中に残った発病葉鞘内で病原菌が長期間生存して伝染源となるので、被害株は丁寧に抜き取り適切に処分する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
ナシ	黒星病	発生量：－	8月下旬現在、葉での発生が平年よりやや多い。秋季防除を徹底し、特に、薬剤散布は徒長枝の先端まで薬液が十分かかるよう丁寧に行う。
	ナシヒメシクイ	発生量：平年並～やや多い	8月下旬現在、フェロモントラップへの総誘殺数は平年並～やや多い。早生・中生品種に被害果が目立った場合は、晩生品種を対象に、収穫前日数に注意して薬剤散布を行う。
	ハダニ類	発生量：平年並	8月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。気温の上昇に伴い発生が助長されるので注意する。多発生している圃場では、秋季、休眠期および翌春の防除を徹底する。
ブドウ	さび病	発生量：平年並～やや多い	8月下旬現在、平年並～やや多い発生である。病原菌の越冬を防ぐため、落葉処理を徹底する。
	べと病	発生量：平年並	8月下旬現在、平年並の発生である。病原菌の越冬を防ぐため、落葉処理を徹底する。
	褐斑病	発生量：平年並	8月下旬現在、平年並の発生である。病原菌の越冬を防ぐため、落葉処理を徹底し、粗皮はぎを行う。
	晩腐病	発生量：－	8月下旬現在、平年よりやや多い発生である。病原菌の越冬を防ぐため、罹病した果梗の切り残し、巻きひげ等は剪除し、適切に処分する。
共通果樹	カメムシ類	発生量：やや多い	8月下旬現在、平年よりやや多い発生である。ナシ（晩生品種）、カキおよびリンゴでは、飛来に注意する。
ネギ秋冬	ネギハモグリバエ	発生量：平年並	8月下旬現在、平年並の発生である。食害量が多い別系統が発生しているので注意する。
夏秋ナス	アザミウマ類	発生量：やや多い～多い	8月下旬現在、平年よりやや多い～多い発生である。
	チャノホコリダニ	発生量：やや多い	8月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
トマト抑制	黄化葉巻病	発生量：－	8月上旬現在、一部圃場の感受性品種で発生を認めた。発病株はただちに抜き取り、適切に処分する。促成トマトの育苗において、媒介虫であるタバココナジラミの侵入防止対策を徹底する。
共通害虫	オオタバコガ	発生量：平年並～やや少ない	8月下旬現在、直近1か月間のフェロモントラップへの総誘殺数は平年並～やや少ない。一部圃場で発生を認めている。
	ハスモンヨトウ	発生量：－	8月下旬現在、直近1か月間のフェロモントラップへの総誘殺数は、県西地域の一部で平年より多く、県南地域の一部で平年よりやや多い。



## 大豆におけるべと病と紫斑病の防除について

### ○べと病

#### [特徴]

雨の多いときに多発し、主に葉に発生して子実にも感染する。

葉では、はじめ円形または不規則な形の黄白色の病斑ができ、病斑の裏面には綿毛のような灰色の菌そうが盛り上がる。発病が激しいと葉は萎凋して落ちる。子実では、乳白色～黄褐色の菌糸や卵孢子でうすく覆われ、種皮に亀裂を生じることもある。

#### [防除対策]

- ① 発病初期からの薬剤防除を徹底する。
- ② 種子や被害茎葉は翌年の第一次伝染源となるので、収穫後の被害残渣は土中深く埋める等適切に処分する。
- ③ 収穫調製を丁寧に行い、被害粒を除去する。

### ○紫斑病

#### [特徴]

開花期や成熟期に雨が多いと発生が多くなる。特に、収穫期前の降雨が発病を助長する。

葉では、中肋や支脈に沿って紫黒色の小斑点ができる。莢では、円形または不正形の紫褐色～紫黒色の斑点ができ、莢が黄化する頃から子実での発病が始まり、子実ではへそ中心に紫色の病斑が生じる。

本年は7月の長雨により播種日が大きくばらつき、それに伴い圃場により開花期も大きく異なると予測される。そのため、圃場をよく観察して適期に防除を行うよう注意する。

#### [防除対策]

- ① 防除適期は開花期の20～30日後頃である。
- ② 県内では、チオファネートメチル剤に対する耐性菌が出現しているため、それ以外の薬剤を使用し、2回目の防除を行う際はFRACコードの異なる薬剤を散布する。
- ③ 収穫が遅れると発生が多くなるので適期に収穫する。

## Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 8月29日から9月28日)

気象庁 (8月27日 発表)

<向こう 1 か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
	気温	関東甲信全域	10	10	80
	降水量	関東甲信全域	30	30	40
	日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。

<1 週目の予報> 8月29日 (土曜日) から9月4日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 80%

<2 週目の予報> 9月5日 (土曜日) から9月11日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確立 80%

<3 週目から 4 週目の予報> 9月12日 (土曜日) から9月25日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散 (ドリフト) しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため, 作用機構分類\* (FRAC コード, IRAC コード) の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については, 病害虫発生予報 5 月号 (令和 2 年 4 月 24 日発表) の防除所  
レポート参照